

平成 25 年 8 月 22 日

島根県中山間地域対策プロジェクトチームの高知県視察について（報告）

- 1 視察日程 7月8日(月)～9日(火)
- 2 参加者 島根県中山間地域対策PT、鳥取県、岡山県、広島県、山口県
- 3 視察目的 ①高知県の地域支援企画員制度、中山間地域対策
②集落でお金を稼ぐ仕組み及び集落を維持する仕組みの具体的事例の視察
- 4 視察概要

(1)高知県との意見交換会【8日(月)9:00～11:00】

- ①場所:高知県庁第2応接室
- ②視察対応者:高知県産業振興推進部地域づくり支援課、中山間地域対策課
- ③内 容:
 - 高知県の地域支援企画員制度について
各市町村役場に県庁職員が駐在し、現場に近い立場で地域振興・産業振興に携わる「地域支援企画員」制度の概要、創設から11年目迎える同制度の成果と課題
 - 高知県中山間地域対策について
県が複数集落の活動拠点として各地区に導入を進めている集落活動センター制度、高知ふるさと応援隊制度(集落活動センターの運営に従事する活動従事者)の概要

(2)津野町の地産地商・外商システム、(株)満天の星の取組紹介【8日(月)13:00～16:00】

- ①場所:津野町役場
- ②視察対応者:津野町産業建設課・黒川課長、(株)満天の星・竹村社長他
- ③内 容:
 - 津野町の地産地商・外商システム
集落毎に設置された集荷所(26ヶ所)と町内の道の駅(3ヶ所)、高知市内のアンテナショップ(3ヶ所)をつないだ出荷流通システム等
 - (株)満天の星
国と県の補助金を活用して町が整備した加工所(町内の旧学校跡地)とアンテナショップ(高知市内)の指定管理者である「(株)満天の星」の加工品の開発の具体的な事例
《H24売上》203,558千円
《雇 用》30人(うち正職員8人)

(3)森の巣箱の取組紹介【8日(月)16:30～18:00】

- ①場所:津野町床鍋地区 森の巣箱
- ②視察対応者:森の巣箱・大崎 登施設長、津野町地域支援企画員・隅田 紀子氏
- ③内 容:
集落の存続に危機感を覚えた地域住民により廃校を活用した地域づくりに取り組む「森の巣箱」の取組み

【森の巣箱】

平成13年にオープン以来、年間約3,000人近くの観光客が集落を訪れ、廃校を活用した地域づくりのモデル事例として全国的に注目。宿泊施設、コンビニ、居酒屋、イベント会場など多面的な機能を備えた地域の拠点施設として、地域住民の生活支援・所得の向上・居場所づくり等につながっている。

《H24売上》約5,000万円 うち宿泊約500万円、居酒屋約2,300万円、コンビニ約2,300万円
《雇 用》正職員1人[施設長の奥さん]、パートは地域住民が交代勤務

(4) ㈱大宮産業、大宮地区集落活動センターの取組紹介【9日(火)10:30~12:30】

①場所: 四万十市大宮地区 大宮生活改善センター

②視察対応者: ㈱大宮産業・竹葉 傳社長、四万十市地域支援企画員・市川 拓史氏他

③内 容:

●㈱大宮産業

JA撤退後ガソリンスタンドの経営を引き継いだ地域住民出資の株式会社大宮産業の取組み

【大宮産業】

平成18年5月の設立以来、黒字経営が続いており、現在はガソリンスタンドの運営以外にも日用品等の販売、地元米の地域外の販売、宅配サービス等に取り組む。

《H24売上》約6,378万円 うちガソリンスタンド59%、米18%、食品等11%、農業資材等7%、生活用品等5%

《雇 用》正職員1人、パート1人

●大宮地区集落活動センター「みやの里」

県内9ヶ所目に設置(H25.5)された大宮地区の集落活動センター「みやの里」の取組みについて

【みやの里】

地域住民で構成される「大宮地域振興協議会」が運営主体となっており、大宮産業の社長である竹葉氏が会長を勤めている。同センターは「将来みんな安心して暮らせる地域づくり」を目標に、特産品開発や田植え体験交流などに加え、葬祭事業の展開も視野に今後の活動内容を検討

《雇 用》高知ふるさと応援隊3名

※集落活動センターに従事する人材。センター準備期間1年+活動期間3年の最大4年間、県の補助(1人あたり補助限度額100万円・補助率1/2)あり。
国の特別交付税措置がある地域おこし協力隊及び集落支援員との併用可。